

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業大学校費

事業名 農業機械整備費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農業大学校 総務課 電話番号：0574-62-1226

E-mail：c24405@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1, 249千円 (前年度予算額：1, 774千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,774	0	0	0	0	0	0	0	1,774
要求額	1,249	0	0	0	0	0	0	0	1,249
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

学生のプロジェクト学習、農場管理に使用する農業機械が老朽化しているため、下記のとおり物品の更新を行う。

① 自走式セット動噴の更新

野菜専攻では、3班に分かれ野菜栽培に関する管理を行っている。現在自走式セット動噴を2台保有しているが、天候や病害虫の発生状況により作業するタイミングが重なることも多い。2002年に購入した動噴が老朽化し修繕が困難となっているため、農薬散布作業を安全に行うために機器の更新が必要である。

希望購入機種：(株)丸山製作所 MSV415L-1 412千円

現行機種：(株)丸山製作所 MSV313BK

② ハンマーナイフモアの更新

農業大学校では農薬使用回数を削減するために、できるだけ除草剤を使用しないで草刈りを実施している。ハンマーナイフモアは購入後26年が経過し、老朽化により修理も困難なため、業務に支障をきたしているため更新を行う。

希望購入機種：(株)オーレック HR803 532千円

③ 牛用計量台の更新

現在保有している牛用計量台が、老朽化による金属部分の腐食により修理が困難なため、牛の体重の計測に支障をきたしている。体重測定は牛の発育状況や使用管理状況を把握するために欠かせないため、早急に更新を行う必要がある。

牛用計量台 車輪付き

305千円

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10 / 10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
備品購入費	1,249	自走式セット動噴、ハンマーナイフモア、牛用計量台
計	1,249	

決定額の考え方

財政課で記載します。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略
3 地域にあふれる魅力と活力づくり

(2) 国・他県の状況

- ・岐阜県を含む42道府県が農業大学校を設置

(3) 農林畜水産業の活性化

① 農林畜水産業を支える人材の育成・確保

- ・ぎふ農業・農村基本計画

第6章1-(1)-② 産地の実情に応じた多様な担い手の育成・確保

- ・多様な人材の活躍 農業大学校の環境整備やカリキュラムの充実

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 農業大学校における新たなカリキュラムの実施等を通じ自家就農・雇用就農で新たな担い手を目指す学生の増加を図り、ひいては県の新規就農者の育成確保に資する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R1)	R2 年度 実績	R3 年度 目標	R4 年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
① 入学者数	28 人	27 人	30 人	30 人	30 人	% 90
② 卒業者数	31 人 (H30)	25 人 (H31)	27 人 (R2)	30 人 (R3)	30 人 (R6)	% 90

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	・取組内容と成果を記載してください。 農業改良助長法に基づき、新規就農者の育成・農業技術者の育成に向け、教育計画に基づく講義や農業実習等の実践教育を実施した。 なお、卒業生 27 人は、県内に 13 人が就農し、農業団体、農業系企業に 9 人が就職した。（県外への就農就職等は 5 人）
令和 3 年	令和 5 年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和 4 年	令和 6 年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</small></p>	
(評価) 2	農業大学校の古い施設や設備を整備していくことで、円滑に学校運営を進めることができる。
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	老朽化施設を整備することで、学生のプロジェクト研究をより効果的、効率的に実施することができ、一定の成果が認められる。
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</small></p>	
(評価) 2	施設整備の優先度、有効性について施設ごとに検討し、計画的に整備を進めている。

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 (課題) 明日の岐阜県農業を担う農業者を育成するため入学者の確保及び就農に向けた取り組みの一層の強化。 (改善が必要な事項) 学生に安全かつ快適な環境の中で、知識と技術を習得させるため、施設・設備の計画的な再整備が必要。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 入学者の確保のため農業高校等を訪問し、教育方針及び卒業生の進路情報を提供し、農業大学校への学生募集の推進を引き続き行う。 また、多様な就農者の確保に向け、市町村、農林事務所、農業士会、農業団体等との連携を強化し、新規就農希望者の受け入れ支援体制整備を図る。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	